

和 而 不 同

例年とは装い新たな秋の行楽シーズン。

未だやまないコロナ禍の日常、某キャン
 ペーンも始まり、賑わいの兆しが不安感
 を遮る。生きる為にこの時を待ちわびた
 人、生きる為の心配事が増えてしまった
 人・・・立場は十把一絡げじっばひとからには括れないくく

▼都合よく物事を進めるためには、弊害は少ない方がよい。単純な理屈だ。例えば美しい花壇を作る際には容赦なく「不要な雑草たち」を引き抜く。無論、ここにむしり取られる側への考慮はない▼人の世界も残酷だ。自己の理想のテ

リトリーを築き保つためには、恐れとなりうる都合の悪い存在はできるだけ遠ざけ、意に反する話は拒絶する▼ただ、こうした状況への執着は、ある意味臆病さの裏返しだ。いわゆる不安分子だけを排除したとこに残るのは、傍から見れば風通しの悪い、極めて内向きな単なるイエスマンの集会に過ぎない。まるで一切鏡を見ずに生活するようなものだ▼異なる意見を聞くためには相当なエネルギーを要するが、対極の存在は本来自身の立場を整理する上での重要な鍵だ。逆に正確な説明プロセスを踏む自信がない時ほど対話を怠り、半ば強引になるの言うまでもない▼そうした姿は、周りからは意外と冷静に見られていることも忘れてはならない〔徳〕

先日、以前に受診した定期健康診断の結果が届きました。通知書面の閲覧は毎回緊張します。もしかしたら都合の悪いことが書いているかもしれないという恐れと、色んな意味で隠しきれないありのまま姿が浮き彫りになってしまうという恥ずかしさ。自分以外からの示しで初めて現状の自分に気づく、日常生活におけるそうした機会の典型例ではないでしょうか。(若院)